

●柏崎市震災復興計画の策定にあたって

平成19年7月16日午前10時13分、柏崎市にとって生涯忘れることのできない新潟県中越沖地震が発生し、市内に甚大な被害をもたらしました。

このたび、次代を担う子どもたちが誇りと希望のもてるふるさと柏崎の再生に向けて、地域が一丸となって取り組むため、震災復興のキャッチフレーズを「さらなる未来へ」とし、「柏崎市震災復興計画」を策定しました。本計画は、長期的な視野にたって、市民参加と協働及び自助、共助、公助の精神を尊重しながら着実な取組を進め、災害に強い、安全で安心して暮らせる都市への復興を目指します。

このたびの震災がまさに未曾有の災害だっただけに、その復興に向けての道のりは決して平坦ではありませんが、この震災から得た教訓をふまえ、本計画に基づき、1日も早い復興を成し遂げる所存でありますので、今後ともご指導、ご協力をお願いいたします。

文責者：柏崎市中越沖地震復興本部会議
紹介者：高尾利文（第二計画部）

●旧別府市公会堂の保存

大分県別府市には、東京中央郵便局などを手がけた旧逓信省建築技師・吉田鉄郎の設計になる旧別府市公会堂がある。市制施行を記念して1924年に完成したもので、県内で現存する最古の鉄筋コンクリート建造物だ。

この建物を建築当初の姿に復元し、改めて市民のシンボルとして活用し、観光資源にもしようと、町並み保存に取り組むNPO法人・別府八湯トラストが3月30日、旧公会堂大ホールを会場にシンポジウムを開いた。

旧公会堂は戦後、市中央公民館と改称され、1960年代には建物の特徴付けていた正面玄関の石造りの階段が全面撤去されるなど外観や内部が大幅改修されてしまった。しかし、その後の県教育委員会の近代化遺産調査で高く評価され、市も文化財に指定（1994年）し、雨漏りしていた屋根の改修などを行った経緯がある。

シンポでは、下間久美子・文化庁文化財調査官が「文化財建造物の保存と活用」と題して基調講演。続いて、県建築士会の芳山憲宏会長の司会で、公会堂の構造調査をした地元の建築家・三ヶ尻勝さんや野村正則・別府大学短期大学部教授、元市建設部長の外山健一さんが公会堂建設の背景や吉田鉄郎について話し合った。

文責者：中野 護（別府オダサク倶楽部事務局）
紹介者：高尾利文（第二計画部）

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>
